

## 2015 年度聖書の集い（第 6 回）

2015 年 12 月 2 日

桃山基督教会 古本 靖久

<http://momoyama.hannnari.com/>

- 1、聖歌 82 番 「み使いの 主なるおおきみ」
- 2、お祈り
- 3、聖書 「ルカによる福音書 2 章 15 節～21 節」（新約聖書 103 ページ）
- 4、今日の内容  
神さまってどんな方？「⑥ イエス様を与えてくださる方」

早いもので、今年も 12 月となりました。幼稚園ではこの時期になると、年長さんはクリスマスページェント(降誕劇)の練習をしていきます。おうちでもその成果を見せてもらっていることでしょう。

今日はこの「クリスマス」について、少しお話をしたいと思います。

### ① クリスマスは何の日でしょう？

クリスマスとはイエス・キリストの誕生を記念する日です。商店街などを見ているとサンタクロースに関係する日のように思うかもしれませんが、そうではないのですね。

ではイエス様とは一体誰なのでしょう。聖書はイエス様を「救い主」として描きます。どんな人を救うのでしょうか。



簡単に説明しますと、「神さまに顔向けできない人たち」と「自分だけでは歩けなくなった人たち」です。例えば何か悪いことをしてしまっ、謝りに行きたくても行けないことってないでしょうか。そんなときに間に立って、「ごめん」と言ってくれる人がいたらいいですよ。またとっても辛いことがあって、もう歩けないと思ったときに、そっと肩を抱いてくれる人がいたら、何て心強いことでしょう。

イエス様はそのような人たちが元気になるためにお生まれになった。本当に簡単に言いましたが、そのことを記念する日がクリスマスなのです。

## ② イエス様の誕生を真っ先に知った羊飼

さて、ページェントの話に戻りましょう。ページェントにはマリアさん、ヨセフさんの他、宿屋さん、三人の博士、天使、お星さま、羊飼、羊などが出てきます。人数が多い幼稚園・保育園では、ヘロデ王（悪い王さま）や兵士たち、木などもいますが。

その中で、イエス様という救い主が生まれたことを最初に知らされたのは「羊飼」でした。みなさんは羊飼に対してどのようなイメージをお持ちでしょうか。自由で、開放感があって、自然の中にいることができる。しかし当時の社会において、羊飼いは虐げられた、つまり差別されていた人たちだったのです。

羊は草を求めて歩き回りますから、羊飼いたちは一つの場所にじっくり腰を据えることができません。土地などの財産はなかったわけです。また夜、オオカミなどから羊を守るために、野宿をすることがほとんどでした。さらに当時の社会では、「働いてはいけない日」が神さまの掟として定められていましたが、家畜の世話をする人たちにとって、働かない日などありえませんでした。

ですから羊飼いは、人々に見下され、また神さまの掟を破っていると見なされていました。つらかったらと思う。でもその状況から抜け出ることもできず、また神さまに頼ることすらできない。そんな彼らに天使がやって来て、イエス様が生まれたことを知らせたのです。

## ③ イエス様は飼葉おけに寝かされた

そして生まれたイエス様は、馬小屋の飼葉おけに寝かされました。どうしてそのようなところで生まれ、家畜がエサを食べる桶の中に寝かされたのでしょうか。

もしイエス様が王宮やお城、立派なホテルで生まれていたらどうでしょう。わたしたちとは全く関係のない世界で育ち、上から視線で「さあお前たち、救ってやるぞ」と言われる救い主は、わたしたちの気持ちを分かってくれるのでしょうか。

イエス様はわたしたちのために来られました。一番貧しい場所に生まれ、その誕生が一番人々から低く見られていた人に真っ先に知らされました。

それはわたしたちが本当につらく、悲しく、真っ暗闇の中で歩けないときにこそ、イエス様が来てくださるというメッセージなのです。目をキラキラ輝かせて「イエス様、お誕生日おめでとう」と言う子どもたちと一緒に、みなさんも、「イエス様、わたしの心にも生まれてくださってありがとう」と言ってみてはいかがでしょうか。